

2月3日

ヨーロッパの殉教者

～聖ブラシウス～

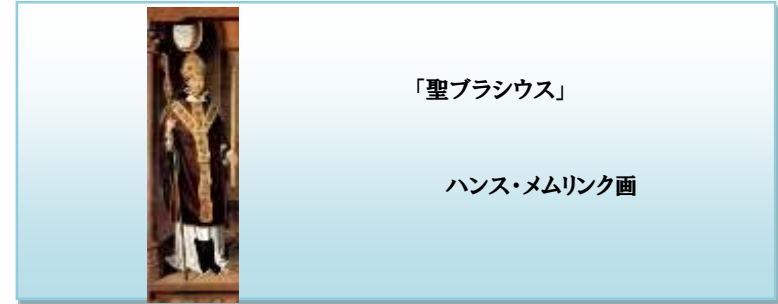
(～316)

聖公会では2月3日を「ヨーロッパの殉教者」を祝う日と定めています。またこの日は、カトリック教会においてはアルメリア（現在のトルコ北西部）のセバステの司教で殉教したブラシオスの記念日となっています。そこでここでは、14 救聖人の一人とされているブラシオスを紹介します。

ブラシオスは3世紀にセバステで生まれました。幼い時から信仰深く育った彼は、医者となってその生計を立てますが、彼の人柄を高く評価していた地元の聖職者や信徒たちにより、309年司教に推されます。

尊敬されていた彼のもとには、たくさんの病気の人たちが連れられて来ました。ある時は、魚の骨が喉につかえて窒息死しそうになった子どもを奇跡的に救いましたが、そのこともあり、喉の病気の救難聖人などとして崇められています。

さて、4世紀初期にもキリスト教への迫害は行われていました。そこで彼は迫害を逃れ、ほら穴に身を隠しながら司牧を続けていきます。その時には獅子や虎、狼までもが彼になつたそうです。



しかし、316年、ほら穴で祈っていた彼のもとに総督の部下が偶然訪れ、彼はつかまってしまいます。総督はブラシオスに棄教をすすめますが彼は応じず、柱に縛りつけられ、鉄の熊手で体をひき裂かれます。しかしそれでもブラシオスは神を賛美し続け、遂に総督は、彼の首を切り落とします。そしてブラシオスは、首を切られる時「主よ、わたしの世話になった者や、わたしの取り次ぎを願う者のために特別お恵み下さい」と祈ったと言われています。

彼の殉教後、多くの罪人たちは改心していきました。そして中世以来、ヨーロッパ各国ではブラシオスの掩祝（えんしゅく）を与えるという習慣が生まれていきます。それは、司祭が二本のろうそくを十字に組んだまま信者の喉にあてがい、片手で祝福を祈るというものです。

<特禱>

全能の神よ、あなたは証びとを召して国々、ことにヨーロッパに遣わし、その生涯によって栄光を現されました。どうか殉教者たちとの交わりが強められ、わたしたちもその模範に倣い、感謝して忠実にみ国のために働くことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン